

なつがしの “カルタ”で あそぼう

富津ふるさとカルタ(あ～こ編)

全種類のカルタをみたい方は房総ファミリアホームページ又は富津市役所ホームページをご確認ください。
※現在販売はしていません。それぞれホームページに印刷用データがあります。印刷してご利用ください。

平成6年7月、市内18の小中学校(当時の学校数)に「私の住む町ふつつふるさとってどんなところ～」をテーマに、いろは44文字で始まる富津市内の名所、旧跡、名物などを折り込んだ標語の募集を依頼しました。その結果9月には、応募人数1,587人、3,427点の予想を超える作品が集まり、数多い作品の中から、子どもらしさ、学校、学年、地域のバランス、ことばの粹組み、事柄の重複等考慮しながら44の標語を選定しました。
(協力:富津市社会科教育実践を語る会 絵:大和美術印刷株式会社 宮澤 正明氏) ※カルタ制作時と現在は状況が変わっている場合があります。

富津市役所
教育部(教育委員会)生涯学習課
電話:0439-80-1345 富津市下飯野2443



あ 雨ごいで
踊るササラに
かっこ舞

鶴岡のかっこ舞(市指定)

佐貴の鶴岡地区に伝わる「かっこ舞」は、毎年7月第一日曜日の浅間神社の祭礼で、雨ごいのために奉納されています。
市内に伝承される唯一の「かっこ舞」です。



い いにしへの
ロマンを写す
大鏡鉄

金谷神社の大鏡鉄(県指定)

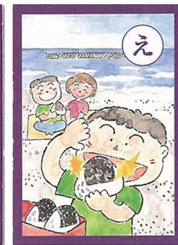
日本武尊が東征の時、船の先にかけてきたと伝えられている大鏡鉄は、金谷神社に大事に納められ、地元では「鉄尊様」などよばれ、信仰されています。大鏡鉄は砂鉄を原料にした鉄錠で、その技術は現代の技術でも難しいほどすばらしく、貴重なものです。



う 姥の落としした
関の
姥石

関の姥石

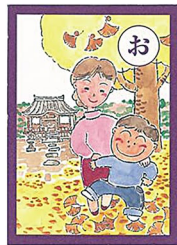
関の姥石は、上部が窪んだ八角形をした大きな石で、環から関豊に通じる道路沿いにあります。地元では、この石は「関の姥さま」というお話で、姥さまの杖にあった石臼が落ちたものだと、伝わっています。他に関には、巨人伝説や巨石信仰をはじめ、いろいろな民間伝承があります。



え 遠足で
おにぎり見れば
光るのり

海苔

富津市は県下でも有数の海苔の生産地です。明治時代初期、ノリヒビを移し変えることにより、海苔がたくさん採れる方法を開発した大堀村の平野武次郎は、海苔作りの功労者の一人です。いまは、浅瀬にノリヒビをたてるのでなく、沖合いにベタ流しによる方法で生産しています。



お オハツキイチヨウ
黄色いじゅうたん
薬王寺

薬王寺のオハツキイチヨウ(県指定)

竹岡の薬王寺境内には、葉の先に実をつける珍しいイチヨウの木があります。
「オハツキイチヨウ」といい、約高さ18メートル、根回り3.1メートル、枝張り南北15メートル、東西14メートルもある大きな木です。



か かにさんが
足をくすくする
潮干狩り

潮干狩り

3月半ばから8月ごろまで、富津岬から北側(内海)にわずかに残った遠浅の海で、潮干狩りができます。富津市内で唯一の潮干狩り場(富津海岸)は、アサリを両手に抱えた親子連れで賑わいます。



き 鬼涙山
鬼の血流す
血染め川

鬼涙山と染川

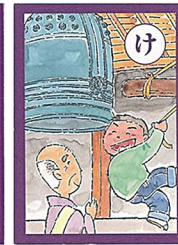
鹿野山とその周辺地域には、昔、日本武尊と阿久留王が激しい戦いをしたという伝説があります。
阿久留王を鬼にたとえ、鬼が涙を流して降参したので「鬼涙山」、阿久留王が日本武尊に切られたとき、川が血潮に染まったから「血染川」(いまは「染川」といういわれがあります)。



く 久里浜と
金谷をむすぶ
定期船

東京湾フェリー

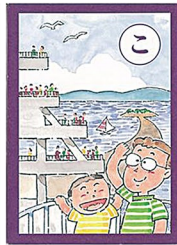
金谷港と対岸の神奈川県久里浜港を35分で結ぶフェリーが、1960年から就航しています。京浜地方からの観光客の足として、また京浜地方と房総を結ぶ近道として、大きな役割をはたしています。



け 見性寺
ぼくらが鳴らす
除夜の鐘

見性寺梵鐘(市指定)

相川地区に、見性寺という禅宗のお寺があります。このお寺のつり鐘(梵鐘)は、正徳5年(1715)につくられたものです。
この時代のつり鐘は、近隣では数も少なく、貴重な工芸品です。



こ 五葉松
岬に高き
展望台

富津岬と展望台

富津岬は、東京湾に突き出た砂洲で、「関東の天の橋立」といわれています。
岬の先端近くには、昭和45年、五葉松をかたどったといわれる展望台が明治百年を記念してつくられました。また「富津州海浜植物群落地」として、植物学的にも貴重な場所と県指定です。